

令和3年度 当初予算（案）

# 主な事業の説明書

建設部

款	項	目	大事業	ページ
6	1	9	10・11 国土調査事業費（補助分・単独分）	7－ 1
8	2	2	10・11・13 道路維持管理費（単独分・債務負担行為分・社会資本整備総合交付金事業）	7－ 2
8	2	2	12 除雪対策費	7－ 3
8	2	2	14 除雪機械購入費	7－ 4
8	2	4	32・40 道路改良事業費（単独分・社会資本整備総合交付金事業）	7－ 5
8	2	6	15 橋りょう長寿命化対策事業費（社会資本整備総合交付金事業）	7－ 6
8	2	8	1・2 交通安全施設整備費（単独分・債務負担行為分）	7－ 7
8	2	8	6 通学路歩道整備事業費（社会資本整備総合交付金事業）	7－ 8
8	3	1	13 駐車場管理運営費	7－ 9
8	4	1	20 住宅リフォーム支援事業費	7－1 0
8	4	2	10 地域住宅整備事業費	7－1 1
8	7	1	10 公園維持管理費	7－1 2
8	7	4	10 市民ゴルフ場管理運営費	7－1 3

# 事 業 説 明 書

6 款 1 項 9 目 10・11 事業

(施策の大綱) 道路河川等の整備

(施策) 安全で快適な道路・河川の確保

(基本事業) 道路・橋りょう施設の最適化

継続

課所名： 建設部 用地対策課

『事業名』 **国土調査事業費（補助分・単独分）**

【R3年度】	<b>31,901</b> 千円	【R2年度】	<b>6,600</b> 千円	【増減額】	<b>25,301</b> 千円
補助分	28,060 千円	【R2年度】	3,000 千円	【増減額】	25,060 千円
単独分	3,841 千円	【R2年度】	3,600 千円	【増減額】	241 千円

※R3年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	<b>21,045</b>			<b>10,856</b>

1. P l a n（計画：事業の目的及び目標）

地籍の明確化を図るため、国土の実態を総合的に調査することにより、公共土木・都市計画・宅地造成等の事業にその測量データが利活用されるとともに、土地の権利関係の明確化・租税公課の公平化を図る。

2. D o（実行：これまでの実績と成果）

- ・土地の境界、権利関係が明確になり、課税の適正化が図られる。
- ・災害が発生した場合にも測量成果を活用することにより、迅速な復旧・復興が図られる。

【実施面積及び決算額（補助分）】 ※調査面積は換算面積（決算額：千円）

地域	H28		H29		H30		R1	
	調査面積	決算額	調査面積	決算額	調査面積	決算額	調査面積	決算額
西仙北	0.12 km <sup>2</sup>	5,210	0.10 km <sup>2</sup>	4,680	0.12 km <sup>2</sup>	3,180	0.12 km <sup>2</sup>	5,480
協和	0.22 km <sup>2</sup>	4,370	0.14 km <sup>2</sup>	2,860	0.35 km <sup>2</sup>	4,570	0.32 km <sup>2</sup>	5,540
太田	0.26 km <sup>2</sup>	13,820	0.18 km <sup>2</sup>	9,672	0.19 km <sup>2</sup>	12,610	0.14 km <sup>2</sup>	10,400
計	0.60 km <sup>2</sup>	23,400	0.42 km <sup>2</sup>	17,212	0.66 km <sup>2</sup>	20,360	0.58 km <sup>2</sup>	21,420

3. C h e c k（評価：問題と課題）

事業の未実施・休止地域における今後の着手等について検討を要する。

4. A c t（改善：今後の方向性とR3年度事業の概要）

【令和3年度事業概要】（千円）

地域	事業費(補助分)	事業費(単独分)
西仙北	6,600 第1計画区 調査面積 0.13Km <sup>2</sup> (北野目, 寺館, 高城) 面積計算、原図等作成業務委託 等 第2計画区 調査面積 0.11Km <sup>2</sup> (寺館, 高城, 強首) 面積、筆界点測量業務委託、現地調査 等	・地籍調査支援システムに係る保守料、リース料、回線使用料
協和	9,300 第1計画区 調査面積 0.13Km <sup>2</sup> (協和船沢) 面積計算、原図等作成業務委託 等 第2計画区 調査面積 0.33Km <sup>2</sup> (協和船沢) 面積、筆界点測量業務委託、現地調査 等	・過年度修正業務委託 等
太田	12,160 第1計画区 調査面積 0.18Km <sup>2</sup> (太田町国見, 斉内, 太田, 駒場) 面積計算、原図等作成業務委託 等 第2計画区 調査面積 0.39Km <sup>2</sup> (太田町永代) 面積、筆界点測量業務委託、現地調査 等	
計	28,060	3,841

令和2年度からスタートした第7次国土調査事業十箇年計画により、ドローン等を活用した新たな測量技法の導入を検討しながら効率的に推進し事業の加速化を図る。

# 事 業 説 明 書

10  
11

8 款 2 項 2 目 13 事業

(施策の大綱)道路河川等の整備

(施策)安全で快適な道路・河川の確保

(基本事業)道路維持管理・新設改良予算の適正執行

継続

課所名：建設部道路河川課、西仙北・協和建設水道事務所、中仙・太田建設水道事務所

『事業名』 **道路維持管理費(単独分・債務負担行為分・社会資本整備総合交付金事業)**

【R3年度】	<b>507,972</b> 千円	【R2年度】	<b>520,897</b> 千円	【増減額】	<b>△ 12,925</b> 千円
単 独 分	<b>396,472</b> 千円	【R2年度】	<b>396,397</b> 千円	【増減額】	<b>75</b> 千円
債務負担分	<b>25,000</b> 千円	【R2年度】	<b>22,500</b> 千円	【増減額】	<b>2,500</b> 千円
社会資本	<b>86,500</b> 千円	【R2年度】	<b>102,000</b> 千円	【増減額】	<b>△ 15,500</b> 千円

※R3年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
<b>46,710</b>		<b>112,200</b>	<b>10,937</b>	<b>338,125</b>

**1. Plan (計画：事業の目的及び目標)**

※法定外公共用財産使用料  
※地域雇用基金繰入金

快適な道路環境を提供するための体制を維持し、老朽化や頻発する災害に対する構造物の安全性・強靱性の更なる強化に努める。

損傷箇所への復旧や老朽化箇所の若返りは、路線の性質に最も適した効果的手法により対応する。

【幹線道路：恒久的手法(社会資本整備総合交付金事業) / 生活道路：即効的手法(直営補修保全)】

- 目標：(単 独) 直営舗装及びパッチングによる路面修繕 1,724t (約14,988㎡)  
直営によるバキューム清掃 8地域 30箇所  
(社会資本) 幹線道路の路面修繕事業：6地域 8路線

**2. Do (実行：これまでの実績と成果)**

- ・平成26年度に1班でスタートした直営舗装は、これまでに3班(直営舗装:1班、パッチング:2班)へ体制を強化し、市内全域の舗装補修にスピード感を持って対処してきた。
- ・令和2年度には市職員による道路パトロール隊を創設し、道路交通網の維持保全強化に努めている。

【主な事業実績】

単 独	直営施工 (AS舗装)	平成26～29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	累 計
		126路線 11,316m 47,290㎡	38路線 4,189m 21,080㎡	30路線 2,884m 27,391㎡	30路線 2,734m 10,053㎡	224路線 21,123m 105,814㎡
社会資本	幹線路面修繕	18路線 延10,371m 63,304㎡	幹線法面修繕	1路線 965㎡		

**3. Check (評価：問題と課題)**

- ・3,000kmを超える市道交通網の維持管理では、幹線道路を優先するため生活道路の対応までに時間を要している。
- ・トンネルや大型カルバートは大型施設であるため、今後、老朽化対策のコスト増が見込まれる。また、事故発生時には第三者被害の恐れに加え、復旧対策のための長期間の通行止め等の懸念があるため、予防保全型の計画的な修繕を積極的に取り入れていく必要がある。

**4. Act (改善：今後の方向性とR3年度事業の概要)**

- 直営によるパッチング、草刈り、バキューム清掃等の維持作業の継続、災害時における市民からの要望に迅速に応える体制の維持を図る。
- 限られた予算で3,000km以上の道路網を維持し続けるため、舗装やトンネル等の構造物に関する適切な維持管理計画を見定め、長期にわたり健全な市内交通網を維持し続けていく。

《 R3年度事業の概要 》 ※工事発注による事業

項目 \ 所属		道路河川課				西仙北・協和事務所		中仙・太田事務所	
		大曲	神岡	南外	仙北	西仙北	協和	中仙	太田
単 独	箇所数	4路線	2路線	3路線	2路線	4路線	2路線	3路線	2路線
	事業費	51,718千円				21,461千円		14,752千円	
	概 要	生活道路の路面修繕及び側溝改良							
社会資本	箇所数	2路線	—	1路線	2路線	1路線	—	1路線	1路線
	事業費	42,000千円				16,780千円		17,720千円	
	概 要	幹線道路の路面修繕(舗装打換)							

# 事 業 説 明 書

8 款 2 項 2 目 12 事業

(施策の大綱) 雪対策の強化

(施策) 冬期間の円滑な道路交通の確保

(基本事業) 歩行空間の確保

継続

課所名：建設部道路河川課、西仙北・協和建設水道事務所、中仙・太田建設水道事務所

## 『事業名』 除雪対策費

【R3年度】 **1,085,903** 千円 【R2年度】 **1,108,381** 千円 【増減額】 **△ 22,478** 千円

※R3年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
<b>133,333</b>	<b>19,062</b>		<b>724</b>	<b>932,784</b>

※消雪施設電気使用料

### 1. P l a n (計画：事業の目的及び目標)

冬期間の円滑な道路交通網を将来にわたり安定的に確保し、市民生活の安全性と快適性の向上を実現するための効率的且つ迅速な対応を図ることができる除雪体制を構築するとともに、雪対策の更なる効率化と市民サービスレベルの向上を図る。

- 目標：共同企業体（JV）による道路除雪率：100% ※直営除雪区間を除く

### 2. D o (実行：これまでの実績と成果)

- ・除排雪業務委託費の精算方法見直しによる費用対効果の向上と、除雪体制の維持強化に向けて各地域におけるJV化への問題・課題の洗い出しと改善策を見だし、雪対策の更なる効率化を推進してきた。

H25	除雪業務委託単価の見直し（固定費、待機補償費の導入）
H26	GPSを活用した除雪情報提供システムの本格稼働、地域維持型除雪制度の検討
H27 H28	除排雪業者のJV化（7地域）、道路維持との包括発注の試行（太田地域）
H29 H30	除排雪及び道路維持業務の包括発注を試行（7地域） ※ 冬期路面損傷への対応スピードが向上し、事故抑制効果を発現
R1	全地域での除排雪業者のJV化と道路維持との包括発注を試行 ※ JVでの除排雪業務における問題及び課題を抽出し、次年度への改善を検討
R2	除雪車両補償制度の拡充 ※ R1年度の少雪に伴い除雪体制を維持する為、少稼働車両に固定費等を手当

### 3. C h e c k (評価：問題と課題)

- ・除雪を支える地元建設業者は、公共事業の減少や景気の低迷等により建設機械の導入や雇用の確保が厳しい状況にあり、将来の除雪体制の維持に不安を抱えている。
- ・除雪オペレータの高齢化に伴い、個々のオペレータに蓄積されている技術や知識の継承が急務となっていることに加え、除雪に携わる若手の育成と安定した雇用の確保が必要である。
- ・今後、豪雪災害や異常気象による少雪時でも、長期的に安定した除雪体制を築くため、現在行っている冬期間の道路維持との包括発注に関して、通年及び複数年契約を検討する必要がある。

### 4. A c t (改善：今後の方向性とR3年度事業の概要)

- 各地域でのJV化に伴う問題・課題に対する改善策について効果検証を行い、近年中に複数年契約に移行し、除排雪事業の安定化を図る。（主な効果発現は次を想定）
  - ・作業員、除雪機械の流動化による、除排雪作業の効率化及び、災害時の体制確保
  - ・熟練オペレータの技術・知識・ノウハウ共有化による、きめ細かな除排雪の実施
  - ・雇用創出及び若手育成環境の構築
- 逼迫した財政状況下の本市において、より費用対効果の高い事業を実施するために「現状の問題・課題」の更なる洗い出しを行い、改善に向けた取組の検討・実施によって事業の効率化を推進する。

# 事 業 説 明 書

8 款 2 項 2 目 14 事業

(施策の大綱) 雪対策の強化

(施策) 冬期間の円滑な道路交通の確保

(基本事業) 除雪機械更新サイクルの加速化

継続

課所名：建設部 道路河川課

『事業名』 **除雪機械購入費**

【R3年度】 **77,638** 千円 【R2年度】 **68,300** 千円 【増減額】 **9,338** 千円

※R3年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
<b>51,758</b>		<b>25,800</b>		<b>80</b>

1. P l a n (計画：事業の目的及び目標)

冬期間の円滑な道路交通網の確保に向けて、除雪機械の老朽化に伴う修繕費用及び修繕日数の増大を抑制するために、修繕費用、稼働実績及び耐用年数等を考慮し、優先順位を決めて老朽化機械を更新する。

- 目標：老朽化機械の更新を年間5台ペースで継続し、保有機械の若返りを図る。

2. D o (実行：これまでの実績と成果)

- ・令和2年度は、除雪ドーザをはじめ計10台の機械更新を実施した。

予算	配備地域	購入機械 (新機械)		更新機械 (旧機械)			
		機種	規格	機種	規格	年式(経過年数)	累計稼働
R1 繰越	大曲	除雪ドーザ	11t級	除雪ドーザ	11t級	H2 (30年)	7,975Hr
	西仙北	〃	〃	〃	〃	H8 (24年)	7,947Hr
	仙北	〃	〃	〃	〃	H12 (20年)	5,184Hr
	中仙	〃	14t級	〃	13t級	H2 (30年)	5,588Hr
	大曲	凍結抑制剤散布車	2.5m <sup>3</sup>	凍結抑制剤散布車	2.5m <sup>3</sup>	H13 (19年)	5,377Hr
	神岡	ロータリ除雪車	2.2m級	ロータリ除雪車	2.2m級	H4 (28年)	6,402Hr
R2	大曲	除雪ドーザ	14t級	除雪ドーザ	13t級	S63 (33年)	4,824Hr
	〃	〃	〃	〃	〃	H4 (28年)	9,622Hr
	西仙北	〃	〃	〃	〃	H5 (27年)	7,906Hr
	中仙	〃	〃	〃	〃	S63 (33年)	5,837Hr

3. C h e c k (評価：問題と課題)

- ・市所有の除雪機械の半数以上が製造後15年以上経過しており、老朽化に伴う故障件数の増加と修理に要する日数及び費用の増大が財政負担となっている。
- ・国の社会資本整備総合交付金を活用して事業の推進を図っているが、除雪機械購入への交付金配分率は年度ごとにばらつく傾向にあり、本市計画と事業実績に乖離が生じている。
- ・近年は除雪機械の価格上昇により、1台あたりの導入コストが高くなる傾向にある。

4. A c t (改善：今後の方向性とR3年度事業の概要)

- 交付金事業を有効活用しながら「ロータリ除雪車」や「除雪グレーダ」及び「除雪ドーザ (11t級以上)」等の大型機械を優先的に更新することに加え、県からの払下げ機械の積極的な導入により保有機械の全体的な若返りを図る。
- 保有機械の全体的な若返りにより「除排雪能力の維持・強化」と「老朽化に伴う不測の修繕費用の抑制」を図り、費用対効果の高い除排雪体制を構築していく。

《 R3年度事業の概要 》

目標	配備地域	購入機械 (新機械)		更新機械 (旧機械)			
		機種	規格	機種	規格	年式(経過年数)	累計稼働
2台更新	神岡	除雪ドーザ	14t級	除雪ドーザ	13t級	H13 (20年)	4,716Hr
	太田	〃	〃	〃	〃	H9 (24年)	6,148Hr

# 事業説明書

32  
8 款 2 項 4 目 40 事業

(施策の大綱)道路河川等の整備

(施策)安全で快適な道路・河川の確保

(基本事業)道路維持管理・新設改良予算の適正執行

継続

課所名：建設部道路河川課、西仙北・協和建設水道事務所、中仙・太田建設水道事務所

『事業名』 **道路改良事業費（単独分・社会資本整備総合交付金事業）**

【R3年度】	<b>102,332</b> 千円	【R2年度】	<b>60,417</b> 千円	【増減額】	<b>41,915</b> 千円
単独分	<b>67,332</b> 千円	【R2年度】	<b>44,742</b> 千円	【増減額】	<b>22,590</b> 千円
社会資本	<b>35,000</b> 千円	【R2年度】	<b>15,675</b> 千円	【増減額】	<b>19,325</b> 千円

※R3年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
<b>18,900</b>		<b>75,500</b>		<b>7,932</b>

**1. Plan（計画：事業の目的及び目標）**

市民生活や経済・社会活動を支える重要インフラである道路の必要箇所を次の区分により整備する。

『幹線道路』：公共施設や都市機能に関連する交通利便性の向上を図る。

※ 社会資本整備総合交付金等の国庫補助等を活用し事業を実施する。

『生活道路』：全市的な整備水準の統一化を進めつつ安全・快適性の向上を図る。

非国庫補助路線は単独事業を前提とするが、常に市財政面で有利な制度を模索しつつ事業を実施する。

● 目標：令和3年度計画事業 100%実施

**2. Do（実行：これまでの実績と成果）**

- ・地域間の連携強化や市民生活の利便性向上に資する道路改良を行い、一定の効果を上げてきた。
- ・施設機能の低下が生じた消雪施設の老朽化対策により、冬期間の交通網確保に効果が現れている。
- ・これまでに整備を完了した箇所の中には、豪雨や豪雪時の対策として顕著な効果を発現している事例があり、市民生活の安全・安心に寄与する成果を発揮している。

**3. Check（評価：問題と課題）**

- ・事業箇所は優先順位を考慮したうえで選定し、順次事業を実施しているが、限られた予算内で多くの要望箇所に対応する必要があるため、場所によっては着手に至るまで複数年の期間を要している。
- ・国の社会資本整備総合交付金を活用して整備を進めている路線が含まれているが、近年の道路改良事業に対する交付金の配分率は著しい低迷状態にあるため、事業計画の遅延が生じている。

**4. Act（改善：今後の方向性とR3年度事業の概要）**

- 既存施設の老朽化に伴い、能力に著しい低下が見られる消融雪施設の改修を推進する。
- 現状の財政状況では全ての要望に応えることが困難であるため、着手済路線の整備継続に加え新規路線については「大仙市道路整備に関する指針」に基づき優先順位を定め、着手済路線を定める。
- 市民からの多様化する要求・要望に対して、人口減少と高齢化を踏まえた道路整備の在り方を考慮しながら最も経済的な手法により対応する。

《 R3年度事業の概要 》

所属	路線数	事業	地域	金額（千円）		主な事業概要
道路河川課	5	単独	大曲	31,595	31,784	[新堀1号線]側溝改良 [変電所松ノ木線]県河川改修事業負担金 (橋梁架替)
			南外	189		[高野中山線]用地買収
	1	交付金	南外	12,000	35,000	[湯元荒又線]道路改良(待避所整備)
			仙北	23,000		[高梨堀見内線]道路改良(線形改良)
西仙北・協和 建水事務所	2	2 単独	西仙北		25,498	[大平2号線外]消雪施設整備(富士見町) [黒森山線]地下水調査
太田・中仙 建水事務所	4	1 単独	中仙	5,074	10,050	[山回1号線]道路改良
			太田	4,976		[伊勢堂窪堰線]道路改良 [新田2号線]分筆登記 [久保関古館線]用地買収・物件補償算定外

# 事 業 説 明 書

8 款 2 項 6 目 15 事業

(施策の大綱)道路河川等の整備

(施策)安全で快適な道路・河川の確保

(基本事業)道路・橋りょう施設の最適化

継続

課所名：建設部 道路河川課

『事業名』 **橋りょう長寿命化対策事業費（社会資本整備総合交付金事業）**

【R3年度】 **200,000** 千円 【R2年度】 **200,000** 千円 【増減額】 **0** 千円

※R3年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
<b>118,800</b>		<b>68,600</b>		<b>12,600</b>

**1. Plan（計画：事業の目的及び目標）**

老朽化する橋梁の増加に対応するとともにライフサイクルコストの低減を図るため「橋梁長寿命化修繕計画」に基づいた「予防保全型」の管理を行い、健全な橋梁維持により安全・安心な交通網を確保する。  
道路管理者の義務(道路法に関する省令による)である「5年に1度の定期点検」を全橋実施する。

- 目標：全管理橋梁の定期点検実施（管理橋梁数：1,349橋、1巡/5年）

**2. Do（実行：これまでの実績と成果）**

『橋梁長寿命化修繕計画』

平成25年度：計画策定 対象：437橋 ※「橋長15m以上」「通行止により孤立世帯を生ずる橋梁」  
令和2年度：計画更新(拡充) 対象：1,349橋 ※管理橋梁全て

『橋梁補修』設計：20橋 工事：13橋

『橋梁点検』1巡目：平成27年度～平成30年度 2巡目：令和元年度～

※措置進捗

措置必要 (A)	設計着手済 (B)	修繕完了済 (C)	措置率 (C/A)	措置率 (設計着手済) 措置完了率 (修繕済)					
				0%	20%	40%	60%	80%	100%
109 橋	20 橋	11 橋	10%						
				【管理施設の修繕措置状況（2021.2末時点）】 修繕済10% 設計着手18%					

**3. Check（評価：問題と課題）**

- ・1,000橋以上の橋梁を管理しているため、5年に1回の定期点検費用が大きな負担となっている。
- ・管理橋梁には跨線橋及び跨道橋が22橋(内 JR:7橋、高速道路:8橋)があり、補修はJR東日本及びNEXCO東日本へ委託する必要があるために費用が掛かり増しし、他の橋梁補修に遅れが生じる可能性が高い。
- ・橋梁の利用状況に応じて「廃止」「統合」による管理橋梁数のスリム化を検討する必要がある。

**4. Act（改善：今後の方向性とR3年度事業の概要）**

- 令和3年度はメンテナンス事業補助(国)を活用し、次の事業を実施する。(補助率：事業費の59.4%)

	地域	橋梁名等	架設	橋長	事業概要
補修設計	協和	合貝跨線橋	1973年	15.3m	電力設備の支障改修設計
	西仙北	刈和野跨線橋	1966年	31.2m	詳細設計、現地詳細調査(JR委託)
	協和	半仙歩道橋	1981年	17.2m	詳細設計
	仙北	早坂橋	1973年	19.9m	詳細設計
補修工事	大曲	大曲こ線橋	1965年	13.4m	踏掛版設置
	太田	窪堰2号橋	1973年	24.0m	塗装塗替、当板補修、橋面防水工ほか
定期点検	全域	跨道橋(秋田自動車道)N=8橋、委託N=68橋、直営N=175橋			

- 5m未満の小規模橋梁における補修については、直営補修や小規模修繕を活用し施設の延命化に努める。また、点検業務等の効率化を図る手法を検討していく。
- 秋田県内市町村で最多数の橋梁を管理していることから、施設の老朽状況を容易に把握するための手法や新たな取り組みを模索し、より効率的な橋梁維持を推進していく必要がある。

# 事 業 説 明 書

1  
8 款 2 項 8 目 2 事業

(施策の大綱) 道路河川等の整備

(施策) 安全で快適な道路・河川の確保

(基本事業) 道路維持管理・新設改良予算の適正執行

継続

課所名：建設部道路河川課、西仙北・協和建設水道事務所、中仙・太田建設水道事務所

## 『事業名』 交通安全施設整備費（単独分・債務負担行為分）

【R3年度】	<b>43,464</b> 千円	【R2年度】	<b>42,794</b> 千円	【増減額】	<b>670</b> 千円
単 独 分	<b>28,464</b> 千円	【R2年度】	<b>28,794</b> 千円	【増減額】	<b>△ 330</b> 千円
債務負担分	<b>15,000</b> 千円	【R2年度】	<b>14,000</b> 千円	【増減額】	<b>1,000</b> 千円

※R3年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
				<b>43,464</b>

### 1. P l a n（計画：事業の目的及び目標）

道路等に設置されている交通安全施設の補修や危険箇所への設置を行い、道路交通に関する通行者及び車両の安全・安心を確保する。

- 目標：センターライン及び外側線の塗り替え更新  
     目標頻度      センターライン：1回/2～3年  
                     外側線：1回/5年

### 2. D o（実行：これまでの実績と成果）

- ・パトロールにより把握した交通安全施設の不具合や、各地域の要望箇所等に対しては、可能な限りの修繕及び整備により対処し、歩行者及び通行車両の安全確保に一定の効果を上げてきた。
- ・計画的なセンターラインや外側線の塗り替えにより安全度の高い交通網確保に努めてきた。また、幹線道路及び通学路は債務負担行為による予算を効果的に活用し、雪解け後の速やかな施工により安全・安心の早期確保に効果を発現してきた。

### 3. C h e c k（評価：問題と課題）

- ・除雪により削られ消えてしまう区画線を、中央線は2年～3年に1回、外側線は5年に1回のペースで塗り替えることが望ましいが、管理路線延長が長いことに加え、限られた予算での対応が必要であるため、優先度等を考慮し、交通量が多く危険な箇所を中心に路面標示工事を実施している。
- ・照明灯については、防犯目的で設置を要望されることが多いため、関係機関、団体等と協議のうえ効率的な設置方法を検討する必要がある。

### 4. A c t（改善：今後の方向性とR3年度事業の概要）

- 市民からの要望等を踏まえ、各地域の状況に応じた交通安全施設の整備を実施する。
- 防犯灯設置要綱（平成27年6月1日制定）に基づき、適切な防犯灯設置を推進する。
- 通学路等での区画線設置とグリーンベルト設置は同時施工を実施し、人車双方の安全確保による効果促進を図る。
- 融雪直後に実施する区画線設置は、債務負担行為を設定し、道路河川課で全地域一括発注を行い早期発注・早期完成を図る。

《 R3年度事業の概要：通常分 》

区分	区画線	転落防止柵	防犯灯	カーブミラー	その他	計
事業量	84,700 m	58 m	26 灯	17 基	426	28,464
金額(千円)	24,000	1,390	1,291	1,357	426	28,464

《 R3年度事業の概要：債務負担行為分 》

区分	区画線	内グリーンベルト
事業量	42,340 m	1,500 m
金額(千円)	15,000	

# 事 業 説 明 書

8 款 2 項 8 目 6 事業

(施策の大綱)道路河川等の整備

(施策)安全で快適な道路・河川の確保

(基本事業)道路維持管理・新設改良予算の適正執行

継続

課所名：建設部 道路河川課

『事業名』 **通学路歩道整備事業費（社会資本整備総合交付金事業）**

【R3年度】 **45,000** 千円 【R2年度】 **51,000** 千円 【増減額】 **△ 6,000** 千円

※R3年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
<b>26,730</b>		<b>17,400</b>		<b>870</b>

1. P l a n（計画：事業の目的及び目標）

通学路緊急合同点検及び通学路安全パトロール等の結果を踏まえ、安全・安心な通学路を確保するために社会資本整備総合交付金を活用し、通学路を整備する。

- 目標：令和3年度計画事業100%実施

2. D o（実行：これまでの実績と成果）

- ・平成24年度に実施した通学路緊急合同点検以降、点検及びパトロール等の結果を踏まえ、次の対策を実施してきた。

『追分板杭線』（大曲）全体延長 L=1,362m

平成25年度より通学路における歩行者空間整備を実施し、平成26年度に事業完了。  
路肩拡幅による歩道帯確保に加えてグリーンベルトを施工し、通学路の安全性を向上させた。

『仙北太田線（旧仙北1号線）』（仙北）全体延長 L=2,000m

平成24年度に事業着手し、平成26年度までにL=700mの路線測量、詳細設計を実施、  
令和2年度までに歩道整備等により1,535mの歩行者空間の整備を完了。

『高野中山線』（南外）全体延長 L=720m

平成28年度に事業着手し、事業区間全体の路線測量及び詳細設計を実施。  
令和2年度までにL=320mの路肩部拡幅（歩行者空間整備）を実施。

『高畑新山線・茶畑2号線』（中仙）全体延長 L=380m

平成29年度に事業着手し、事業区間全体の路線測量及び詳細設計を実施。  
令和2年度までにL=299mの歩道整備を実施。

『大町通線』（大曲）対象区間延長 L=920m

平成29年度に事業着手し、生活道路交通安全対策として、区画線及びグリーンベルト施工により車道及び歩道部の幅員を再設定等により、通行車両の速度低下対策を実施。

3. C h e c k（評価：問題と課題）

- ・基本的に路肩部を拡幅し歩行者空間を整備する事業であるため、車両交通に影響を与えることなく歩道等が設けられ、通学路の安全性が向上している。
- ・仙北太田線及び久保関古館線は整備区間延長が長く、事業完了に至るまで相応の期間を要している。

4. A c t（改善：今後の方向性とR3年度事業の概要）

- これまでに実施してきた事業を継続し、安全な通学路の早期完成を目指す。

《 R3年度事業の概要 》

地 域 名	路 線 名	内 容	規 模
中 仙	高畑新山線・茶畑2号線	歩道整備工事	L=81.3m
南 外	高野中山線	歩行者空間整備工事(路肩拡幅)	L=130m
太 田	久保関古館線	歩道舗装工事、支障物件補償	L=140m

# 事 業 説 明 書

8 款 3 項 1 目 13 事業

(施策の大綱) 公共交通の整備

(施策) 地域公共交通の維持

(基本事業) 駐車場の整備・維持管理

継続

課所名： 建設部 都市管理課

『事業名』 **駐車場管理運営費**

【R3年度】 **18,992** 千円 【R2年度】 **18,123** 千円 【増減額】 **869** 千円

※R2年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			<b>18,992</b>	<b>0</b>

※大曲駅東駐車場使用料ほか

1. P l a n (計画：事業の目的及び目標)

J R大曲駅周辺の駐車場を整備することにより、中心市街地の活性化及び交流人口の拡大に寄与し、中心市街地活性化の基本コンセプトである「人が集い輝き続けるまちの拠点づくり」の実現をはかる。

- 目標：大曲駅東・大曲ヒカリオ駐車場の利用台数計：1日当たり450台

2. D o (実行：これまでの実績と成果)

- ・大曲駅東駐車場、大曲ヒカリオ駐車場とも年々利用者が増加。(駅東は令和元年度工事のため減少)
- ・交通アクセスの向上等から利用者が増え手狭になっていた大曲駅東駐車場は、令和元年度に拡張・再整備を行い、駐車可能台数を52台増の136台とした。

【駐車場・自転車駐車場利用実績】

施設名	管理運営	平成30年度			令和元年度		
		利用台数	1日当たり 利用台数	市収入 (千円)	利用台数	1日当たり 利用台数	市収入 (千円)
大曲駅東駐車場	指定管理 (R2から市直 営管理)	30,503	83	4,500 ※指定管理者 納付金	25,927	71	3,840 ※指定管理者 納付金
大曲ヒカリオ駐車場		122,947	336		123,989	339	
大曲駅前自転車駐車場		159,153	436		153,211	419	
大曲駅東自転車駐車場		16,994	47		15,361	42	
大曲駅前パーキング	三セク運営 (市が用地を 転貸)	59,155	162	500 ※株主配当金	55,998	153	0

3. C h e c k (評価：問題と課題)

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、外出及び遠方への旅行・出張を控える動きが広まったことから、駐車場使用料収入が大きく減少している。
- ・経年劣化の進んだ施設・設備等を、計画的に修繕・更新していく必要がある。

4. A c t (改善：今後の方向性とR3年度事業の概要)

【令和3年度以降の方針】

施設の適正な維持管理に努めながら、今後の管理のあり方について、直営と指定管理のメリット・デメリットや拡張整備工事後の駐車場利用実績等を踏まえながら再検討していく。

【令和3年度事業の主な概要】

施設名	節	内 訳	予算額(千円)
大曲駅東駐車場 大曲ヒカリオ駐車場	需用費	電気料3,950千円、水道料261千円、修繕料400千円ほか	4,777
	役務費	電話料103千円、郵便料7千円、通信運搬費290千円	400
大曲駅前自転車駐車場 大曲駅東自転車駐車場	委託料	駐車場管理業務委託6,330千円、管制機器保守管理1,294千円 警備保障396千円、消防用設備等保守点検198千円ほか	8,815
大曲駅前パーキング	使用料及び 賃借料	駐車場用地転貸借料	5,000

# 事 業 説 明 書

8 款 4 項 1 目 20 事業

(施策の大綱) 住環境、公園、緑地の整備

(施策) 住宅の整備

(基本事業) 環境に配慮した住宅等の推進

継続

課所名：建設部 建築住宅課

『事業名』 **住宅リフォーム支援事業費**

【R3年度】 **50,078** 千円 【R2年度】 **50,087** 千円 【増減額】 **△ 9** 千円

※R3年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
				<b>50,078</b>

1. P l a n (計画：事業の目的及び目標)

住宅のリフォーム工事を行う方に対して、経済的支援を実施することにより、居住環境の向上を図るとともに、経済活性化対策として市内住宅産業の活性化を図る。また、三世帯同居の推進及び子育て世帯が求める柔軟な改修の推進を展開し、子育てしやすい住環境整備を図る。

- 目標： 合計370件
    - 【住環境改善】 (目標件数) 210件 × (平均交付額) 100,000円/件 = 21,000千円
    - 【克雪・耐震】 (目標件数) 30件 × (平均交付額) 187,000円/件 ÷ 5,700千円
    - 【住環境等併用】 (目標件数) 20件 × (平均交付額) 169,000円/件 ÷ 3,500千円
    - 【子育て世帯】 (目標件数) 110件 × (平均交付額) 180,000円/件 = 19,800千円
- 合計 50,000千円

2. D o (実行：これまでの実績と成果)

社会状況や市で必要としている政策、市民ニーズによる要望を元に、現行の制度にとらわれることなく、平成26年度以降は補助対象工事や補助内容等の精査をしながら、見直しを行っている。

【過去のリフォーム支援利用状況】

	平成21～28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合 計
申請件数	3,071	487	429	400	364	4,751
補助額(千円)	533,115	70,597	63,061	53,777	51,244	771,794
全体工事額(千円)	7,825,602	900,768	803,215	752,358	558,021	10,839,964

※令和2年度については令和2年11月30日現在。

また、平成29年度以降は全体工事費は税抜、補助額も税抜工事費における補助である。

※平成24年度に発生した風害及び平成29年度に発生した水害にかかる補助金については含まない。

3. C h e c k (評価：問題と課題)

全体的に子育て世帯への支援に重点がおかれており、事業内容について現行制度で充分かどうか、また、対象工事の追加要望についても、事業目的である居住環境の向上に合致するかを検討する必要がある。

4. A c t (改善：今後の方向性とR3年度事業の概要)

- 住環境改善工事 (以下の①～③の工事を行う場合に補助率10%、補助上限額15万円。)
  - ① 衛生設備工事：下水道、農集排又は浄化槽に新規に接続する工事で、トイレ等の水廻りの改修工事も含む。
  - ② 省エネルギー化工事：床、壁、窓、屋根等の断熱化工事、太陽光発電設備、又は省エネ型給湯器の設置等。
  - ③ バリアフリー化工事：居室、トイレ、浴室等の段差解消工事、便器の洋式化、又は手すり設置工事等。
- 克雪対策工事 → 屋根の落雪防止器具や融雪装置の設置等、住宅敷地内の消雪工事を行う場合に、補助率15%、補助上限額30万円。
- 耐震化工事 → 平成12年5月31日以前に建築された木造住宅を改修する工事を行う場合に、補助率15%、補助上限額30万円。全体工事だけでなく、部分改修や耐震シェルターの導入も可能。工事に伴う耐震診断、耐震設計、工事監理も全て対象とする。
  - ※住環境改善工事、克雪対策工事、耐震化工事については、これらを併用した申請も可能。
- 子育て世帯改修工事 → 18歳以下の子ども2人以上と同居している親子世帯又は18歳以下の子ども1人以上を含む三世帯が同居している親子世帯が行う工事の場合に補助率20%、補助上限額30万円。居住部分に係る全てのリフォーム工事を補助対象とする (部分増改築も可)。

(今後の方向性)

- 1 当初予算額到達による申請打ち切りを行わない。
- 2 今後は、申請状況や事業の目的等を考慮しながら、事業の見直しを図っていくことが必要であると考えられる。

# 事 業 説 明 書

8 款 4 項 2 目 10 事業

(施策の大綱) 住環境、公園、緑地の整備

(施策) 住宅の整備

(基本事業) 市営住宅の管理・整備

継続

課所名： 建設部 建築住宅課

『事業名』 **地域住宅整備事業費**

【R3年度】 **15,077** 千円 【R2年度】 **7,260** 千円 【増減額】 **7,817** 千円

※R3年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
<b>6,783</b>		<b>8,200</b>		<b>94</b>

1. P l a n (計画：事業の目的及び目標)

安全で快適な住まいを長期的に確保するため、現在策定中である第2期大仙市公営住宅等長寿命化計画に基づき、予防保全的な観点から計画に基づいた整備及び改善を実施し、長寿命化による更新コストの削減と事業量の平準化を図る。

●目標

長期的な視点を持ち、建物の耐用年数（非木造70年、木造30年）を供用できるよう整備する。

2. D o (実行：これまでの実績と成果)

建物、整備及び周辺環境を計画的に整備することにより、良質な住宅ストックを維持している。

■これまでの事業（社会資本整備総合交付金を活用）

- ・ 福見町市営住宅外壁等改修事業                    160,481千円    【H24～25】
- ・ 愛宕市営住宅屋上防水改修事業                11,450千円    【H24～25】
- ・ 上大町市営住宅耐震改修事業                    68,077千円    【H24～26】
- ・ 天神前市営住宅建替事業                        222,642千円    【H25～28】
- ・ 上大町市営住宅排水管改修事業                13,121千円    【H29】
- ・ 境市営住宅屋上防水改修事業                    12,754千円    【H29】
- ・ 神岡AD棟市営住宅屋上防水改修事業        11,945千円    【H30】
- ・ 船場町市営住宅4号棟屋上防水改修事業      9,269千円    【R1】
- ・ 第2期大仙市公営住宅等長寿命化計画策定業務委託    3,839千円    【R2】

3. C h e c k (評価：問題と課題)

市営住宅の適正な運営を図るため、建物や設備等を継続して整備する必要がある。限られた予算で良質な住宅ストックを維持するため、国の交付金を活用しているが、交付率が50%程度に低下している状況である。

4. A c t (改善：今後の方向性とR3年度事業の概要)

第2期大仙市公営住宅等住宅等長寿命化計画（R3～R12）を着実に実施することにより、既存市営住宅の長寿命化を図る。

■船場町市営住宅5号棟屋上防水改修工事

長寿命型の防水シートへ改修

- ・ 工事費    13,561千円 (A=534.0㎡)
- ・ 委託料    1,516千円 (1式 実施設計(設計監理含む)、工事監理)

事業費計    15,077千円

今後の方向性

第2期大仙市公営住宅等長寿命化計画に基づき、耐用年数などから長期的に利活用するものについては予防保全的な維持管理及び耐久性向上を図る改善を実施し長寿命化を図る。

# 事 業 説 明 書

8 款 7 項 1 目 10 事業

(施策の大綱) 住環境、公園、緑地の整備

(施策) 公園・緑地の整備、緑化の推進

(基本事業) 施設の安全性と利便性の向上

継続

課所名：建設部都市管理課、西仙北・協和建設水道事務所、中仙・太田建設水道事務所

## 『事業名』 公園維持管理費

【R3年度】 77,771 千円 【R2年度】 73,395 千円 【増減額】 4,376 千円

※R3年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			<b>4,057</b>	<b>73,714</b>

※公園使用料 等

### 1. P l a n (計画：事業の目的及び目標)

利用者の安全性の確保と利便性の向上に努めながら、公園緑地施設の計画的かつ適正な維持管理を行い、市民が安全・安心に利用できる憩いの場を提供することにより、市民福祉の向上と健康の増進に寄与する。

- 目標：公園施設管理に起因する事故発生件数 0

### 2. D o (実行：これまでの実績と成果)

人と自然が共生する都市環境の形成を図る公園緑地は、地域住民の憩いの場、防災、子育て、スポーツ、各種イベントなどの多様な機能を有しており、施設の機能保全や長寿命化の観点も踏まえながら、適正な施設管理を行い、施設の有効利用が図られている。

### 3. C h e c k (評価：問題と課題)

供用開始後30年を超える公園が約半数を占め、施設の老朽化が懸念されることから、経年劣化した遊具等の施設改修を適時適切に対応するなど、子育て世代等の利用者ニーズを重視した施設管理に努めるとともに、人口減少の進行を見据えた持続可能な管理体制の構築を図る必要がある。

### 4. A c t (改善：今後の方向性とR3年度事業の概要)

#### 【今後の方向性】

公共施設等総合管理計画において、公園はその地域になくてはならない施設であることから、現状維持を図ることを基本方針としている。

一方で、施設の老朽化が進んでいる状況を改善するため、ライフサイクルコストの縮減効果を含んだ長寿命化計画を検討し、計画に基づく施設の改築、更新を適宜すすめていくことにより、市民が安全・安心に利用できる公園を整備していく。

#### 【R3年度事業の概要】

- ・地域別予算額及び公園概況

課 所 名	R3予算額 (千円)	R2公園数 (市公園条例)					公園面積 (ha)	業務概要
		一般	街区	農村	※その他	計		
都市管理課	54,688	6	20	3	7	36	146.87	・植物管理全般 草刈、芝生管理、 植栽管理、樹木管理 ・遊具、東屋、ベンチ等管理
		2	0	3	1	6	19.00	
		1	0	2	0	3	17.23	
		3	0	3	1	7	15.98	
西仙北・協和 建設水道事務所	9,178	2	0	9	0	11	12.54	・水道設備管理 ・トイレ施設管理
		4	0	6	0	10	7.43	
中仙・太田 建設水道事務所	13,905	7	0	4	0	11	216.59	・公園内スポーツ施設管理 ・その他各種公園施設管理
		3	0	17	0	20	12.08	
合 計	77,771	28	20	47	9	104	447.72	・施設巡視点検パトロール

※その他：【大曲】近隣公園1、地区公園2、総合公園1、都市緑地3 【神岡】地区公園1 【仙北】地区公園1

# 事 業 説 明 書

8 款 7 項 4 目 10 事業

(施策の大綱) 住環境、公園、緑地の整備

(施策) 公園・緑地の整備、緑化の推進

(基本事業) 施設の安全性と利便性の向上

継続

課所名： 建設部 都市管理課

『事業名』 **市民ゴルフ場管理運営費**

【R3年度】 **44,585** 千円 【R2年度】 **45,589** 千円 【増減額】 **△ 1,004** 千円

※R3年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			<b>38,757</b>	<b>5,828</b>

※市民ゴルフ場使用料

1. P l a n (計画：事業の目的及び目標)

国土交通省から河川占用許可を受けた「大曲の花火」公園内でゴルフ場を運営することにより、ゴルフを通じて市民の健康増進を図るとともに、利用者が安全かつ快適にプレーできるよう、施設の適切な維持管理を行う。

●目標：令和3年度市民ゴルフ場利用者数 13,900人

2. D o (実行：これまでの実績と成果)

令和2年度は、新型コロナウイルス感染防止対策で4月29日から5月10日までの12日間、7月と8月に大雨の影響で3日間の計15日の休業日があった。

12月末現在の利用者数及び使用料収入については、ゴールデンウィーク期間中の休業などがあったにも拘わらず、前年度並みの実績を確保することが出来ている。

年度	利用者数	前年度比 (利用者数)	営業日数	1日平均 利用者数	使用料収入	前年度比 (使用料収入)
H27	14,374人	—	266日	54.0人	38,869千円	—
H28	13,313人	92.6%	245日	54.3人	36,496千円	93.9%
H29	11,888人	89.3%	210日	56.6人	32,238千円	88.3%
H30	12,277人	103.3%	246日	49.9人	33,170千円	102.9%
R1	13,432人	109.4%	283日	47.5人	37,276千円	112.4%
12/末現在	12,369人	—	241日	51.3人	34,402千円	—
R2(12/末現在)	12,354人	99.9%	242日	51.0人	34,438千円	100.1%

3. C h e c k (評価：問題と課題)

事業の性質上、利用者数については嗜好のほか、天候や新型コロナウイルス感染者状況などの影響を受けることから、引続き利用者ニーズや時勢を注視しながら、安全で快適にプレーできる環境づくりが求められる。

機械設備等に経年劣化が進んでいるものが多く見られるため、営業に支障が出ないように、計画的な更新を図りながら管理運営していく必要がある。

4. A c t (改善：今後の方向性とR3年度事業の概要)

【今後の方向性】

新型コロナウイルス感染症の影響で、大規模コンペが中止になるなど、利用者の減少が懸念されるが、予防対策を講じながら利用者の安定確保に努めていく。

また、今後とも計画的な施設整備を継続し、クオリティの高いコースづくりに努める。

【R3年度事業の概要】

(単位：千円)

細節	実施内容	予算額
委託料	大仙市民ゴルフ場管理運営業務委託(長期継続契約)	40,658
備品購入費	乗用ゴルフカート新車購入(5人乗りガソリン車)*3台	3,927
	計	44,585